

酒米「山田錦」の安定栽培技術

第1報 中山間地における栽培技術

村山寿夫・上野育夫 (熊本県農業研究センター)

Hisao MURAYAMA and Ikuo UENO : Stable Cultivation Techniques of Brewers' Rice "YAMADANISHIKI"
1. Cultivation Techniques in Mountainous High-land Area.

高級日本酒の原料として酒米好適品種「山田錦」の生産拡大が望まれている。そこで、良質米の生産地である中山間地帯での安定栽培技術の検討を行ったので、その概要を報告する。なお、試験は1988～'90年の3か年にかけて矢部試験地で実施した。

1. 試験方法

供試品種は山田錦、全施肥量はa当たりN : 0.4kg, P₂O₅ : 1kg : K₂O : 0.5 kg。栽植密度m²当たり22.2株。

1) 移植期

移植期を5月15日, 5月30日

2) 苗質と栽植密度

苗質は中苗, ポット成苗を用い, 栽植密度m²当たり22, 16.7株, 13.3株の組合せで実施した。

3) 穂肥時期を無施用, 出穂前25日, 20日, 15日, 20日と10日の2回分施肥区で, N追肥量をa当たり0.2 kg施用した。

2. 結果及び考察

1) 中苗による移植時期は5月15日の早植が栄養生長期が長く穂体が充実し, 倒伏が軽微で2mm以上の玄米粒厚分布割合が高く, 収量, 品質とも優れた。

2) 苗質と栽植密度では, 中苗とポット成苗との差はみられなかったが, 栽植密度ではm²当たり22株の密植より, やや疎植の17株が収量, 心白発現率とも高まった。疎植の13株では酒米品質の条件である心白発現率は高くなったが, 収量は低くなった。

3) 穂肥施用時期では1回施用区が倒伏に弱い傾向があり, 分施肥が軽微となった。また, -15日1回施用と-10日, -20日の2回分施肥区の玄米千粒重が増加し, 晩期

穂肥の効果がみられた。

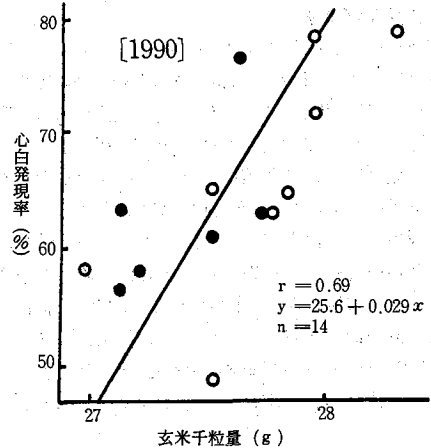
4) 現地栽培の調査結果では玄米千粒重が重いほど, 酒米形質の必須条件である心白発現率が高い傾向がみられ, 玄米千粒重と心白発現率には高い相関がみられた。

3. まとめ

以上の結果から, 移植期は5月中旬の比較的早植で8月中旬に出穂する作型が適当である。

苗は中苗かポット成苗の充実したものをを用い, m²当たり17株程度のやや疎植が倒伏にも強く適当である。

施肥量は長稈で倒伏に弱いことから, 10a当たり窒素成分は全施肥量でa当たり0.4 kg程度とし, そのうち50%程度を穂肥とし, 出穂前15日頃の1回施用か, 出穂前20日と10日の2回分施肥が適当である。



第1図 現地調査における玄米千粒重と心白発現率

第1表 矢部試験地における生育, 収量, 酒米品質

年次	要因	水準	出穂期 月日	稈長 cm	穂数 本/m ²	登熟 歩合 %	倒伏 程度	玄米重		玄米 分布 2mm以上	粒厚 % 2mm以下	心白 発現率 %	心白率 %
								kg/a	g				
1988	移植期	5月15日	8.18	111	337	85	中~多	55.7	27.4	90	10	80	59
		5月30日	8.25	120	336	71	多	46.1	27.3	83	17	76	52
1989	栽植密度	22.2株	8.19	101	365	76	少~中	53.8	26.7	89	11	58	42
		16.7株	8.20	103	356	77	微	57.0	26.8	89	11	60	43
		13.3株	8.21	102	331	75	微	54.2	26.6	88	12	64	45
1989	苗質	ポット成苗	8.18	100	363	77	微~少	55.7	26.5	88	12	57	41
		中苗	8.21	103	351	75	少	54.2	26.8	90	10	63	45
1990	穂肥時期	無施用	8.18	113	356	81	多	46.0	27.8	86	14	63	49
		-25日	8.18	113	370	75	甚	49.4	27.9	87	13	62	47
		-20日	8.18	115	361	82	甚	48.0	27.9	84	16	63	48
		-15日	8.18	110	347	81	甚	51.0	28.2	86	14	63	47
		-20,-10日	8.18	112	362	81	多	47.9	28.4	86	14	65	50